



地場産業の 景気 天気図



晴れ



晴れ一部曇り



曇り



曇り一部雨



雨

好調

不調

業 種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
製 紙	印刷・情報用紙 新聞用紙		6月の国内出荷は、印刷・情報用紙は、前年同月比5.2%減と13ヵ月連続で減少した。新聞用紙も同3.9%減と8ヵ月連続のマイナスとなった。国内の洋紙の低調は続いており、洋紙大手各社は輸出を増やしたり、衛生用紙への切りかえ、エネルギー事業やCNF事業への転換を図ったりしている。
	衛生用紙		6月の国内出荷は前年同月比0.7%増と、5ヵ月ぶりの増加となった。衛生用紙の市場は世帯数の増加や訪日外国人の増加を背景に拡大している。また、価格については、パルプの高騰が続いていることから大手を中心に10%以上の値上げ交渉が進んでいる。輸入紙の価格も上がっているため、今回の値上げは定着するのではとの見方も。
	紙加工など		紙おむつは、大人用が国内で堅調、ベビー用は海外で旺盛な需要が続いているものの、4月以降石油やナフサが上昇しており、原料である不織布やポリマーが上昇基調。 また、ウェットティッシュをはじめとする紙加工品の生産が好調で、積極的な設備投資が進んでいる。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
一般機械 金属製品 鉄鋼		産業機械関連は、建設機械・農機を中心に海外の需要は堅調。プラント関連も、製鉄・高炉メーカーや電力会社の設備更新需要を受け、受注は堅調に推移。ただし、米中貿易戦争による影響が懸念材料。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
造 船	遠 洋 近 海	日本船舶輸出組合によると、7月の輸出船契約実績は18隻・58万4千総トンとなった。大手は2～2年半程度の受注残を抱えるが、2020年以降の新環境規制に対応した新型船は船価上昇もあり、引き合いは低調。
	内 航	1年程度の受注残を抱える。貨物船やRORO船、コンテナ船などの引き合いは強いが、同業他社との競争が激しさを増している。鋼板価格が急騰しており、採算面の悪化も懸念される。

業 種		現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海 運	遠 洋	 ▶ 	ブラジル・中国間の鉄鉱石の荷動きが堅調で、BDI(バルチック海運指数)は1700台まで上昇。ケーブサイズのスポット備船料も25,000ドル/日を突破するなど、ここ数年で最高水準にある。一方、米国・中国間の貿易摩擦がエスカレートすれば、コンテナ船やケミカル船などの荷動き・市況への影響が高まりそう。
	近 海	 ▶ 	日本出しは中国向けの鋼材や原木輸送、帰りのバイオマス燃料の荷動きが堅調。荷主のニーズに合った大型の省エネ船の船腹量が限られるため、スポット備船料は上昇している。
	内 航	 ▶ 	西日本豪雨災害による鉄道(山陽本線)の不通が長期化し、貨物船による鉄道コンテナ輸送量が急増している。中継地点でのトラックやドライバーの確保が難しく輸送量は列車の1割程度にとどまる。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル	 ▶ 	7月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は4,437梱で、前年同月比8.9%減となった。生産量は前年割れが続いているが、ブランディングによって安定した需要が出てきており、現状が適正との声もある。今治タオルプロジェクトの第2フェーズでは、各メーカーが独自の戦略を進めるとともに、組合を中心に産地全体の底上げをしていくことが求められている。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海面養殖	 ▶ 	マダイの浜値は1,050円/kg前後で、記録的な高値が続く。在池尾数が少ないうえ、赤潮による出荷量減が影響。ハマチの浜値は850円/kg前後で、3年生を中心に在池尾数が少なく、高水準を維持。6月中旬から発生していた赤潮は、8月に入り終息方向に向かっている。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
食 品	 ▶ 	削り節の原料であるカツオは、バンコク相場(国際相場)が1,400ドル/トン前後に下落。国内相場も順調な水揚げで140円/kg前後まで下落。蒲鉾では、スリ身が相場高になっている。主力の北海道での水揚げが振るわず、また、世界的な需要の高まりから、北米産の価格も高くなっていることが要因。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
建 設	 ▶ 	7月の県内の公共工事請負金額は、前年同月比22.1%減の102億89百万円であった。発注者別では「県」や「市町」で大幅減となった。6月の住宅着工戸数は前年同月比5.6%減の713戸となった。公共工事、民間工事ともに西日本豪雨災害の復旧作業の影響を受けながら推移することが見込まれる。

業 種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
観 光	 ▶ 	6月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比8.6%減の57,583人と、8ヵ月連続で前年を下回った。県内主要観光施設の入込み客数は、西日本豪雨の被害により今後の集客が懸念される。大きな被害を受けた南予の施設だけでなく、道後温泉の旅館・ホテルでも予約のキャンセルが発生するなどの影響が出ている。